

ゲンビ「広島ブランド」デザイン公募 2018

募集期間：2018年9月21日(金)～11月23日(金・祝)

展示期間：2019年2月16日(土)～3月3日(日)

“広島を効果的に魅せる” アイデア勝負のデザイン公募

「ゲンビ『広島ブランド』デザイン公募 2018」は広島にちなんだモノ・コトにまつわるデザイン案を募集し、すぐれた作品を展覧会として紹介するオープン・プログラムです。2016年度からスタートし今回は3度目の開催になります。

広島の名産品や風土、文化をテーマとし、デザインの観点から発展させた新たな「広島ブランド」のアイデアを募集します。

既存の名産品を（再）ブランディングするような案、あるいは、新たなモノ・コトのデザインを通して、広島の暮らしや物づくりから新たな魅力を引き出すような案など、そのアプローチは問いません。生活や暮らしに密接にかかわる事柄を主題としながらも、実現性や生産効率ばかりにこだわらず、広島の暮らしをデザインの観点から改めて問い直すような、「広島ブランド」の再構築としてのデザインアイデアを募集します。

また、それらのアイデアを「いかに見せるか」という点も重要なポイントとなります。優れたアイデアと、展示においてその魅力を効果的に提示するプランをあわせてご応募下さい。

【特設サイト】 <https://www.hiroshima-moca.jp/h-brand/>

募集要項・応募用紙ほか、昨年の入選作品、審査・選考プロセス等の情報を掲載。



特別審査員

貞廣一鑑 (さだひろ・かつみ 株式会社商業藝術 代表取締役社長執行役員)



広島県出身。「Make a Cinema Day あなたを上映する」をテーマに、多様な人材が個性を発揮し、相互扶助で成長できる会社組織の構築を追求する経営者。社名はコマースとアートの相反する2つの共存を表している。既存文化の編集・再生を「Re_culture 文化再生」、人が集まる社交場の創造を「クロッシングビジネス」と位置づけ、公園付帯型店舗のPark South Sandwich (広島市)や、劇場跡地にEIGHT SUPPERCLUB (広島市)など、現代の新しい社交場を生み出している。レストラン、婚礼、美容など85店舗を展開。

Photo: Herbie Yamaguchi

鈴木康広 (すずき・やすひろ アーティスト)



静岡県出身。既にあるものや見慣れた現象に新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。代表作に《まばたきの葉》、《ファスナーの船》、《空気の人》など。2014年、水戸芸術館にて鈴木康広展「近所の地球」、2017年、箱根彫刻の森美術館にて「鈴木康広 始まりの庭」を開催。「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016」に日本代表として出展。2014毎日デザイン賞受賞。平成29年度文化庁文化交流使。武蔵野美術大学准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

Photo courtesy: The Japan Foundation

須藤玲子 (すどう・れいこ NUNO デザインディレクター)



茨城県出身。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科テキスタイル研究室助手を経て、株式会社「布」の設立に参加。現在、取締役デザインディレクター。日本の伝統的な染織技術から現代の先端技術までを駆使し、新しいテキスタイルづくりを行う。世界各地の美術館、大学で講演、展覧会を数多く行う。2008年より無印良品のファブリック企画開発に携わり、2016年よりデザインアドバイザーボード。毎日デザイン賞、ロスコー賞、JID部門賞等受賞。英国UCA芸術大学より名誉修士号授与。東京造形大学教授。

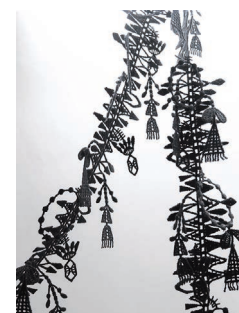
Photo: Kosuke Tamura



EIGHT SUPPERCLUB



《ファスナーの船》
瀬戸内国際芸術祭 2010 出展



レース刺繍「敦煌」

応募

2018年9月21日(金)～11月23日(金・祝) 必着

募集内容

- 広島が誇る名産、風土、文化がもたらす暮らしの豊かさを、よりいっそう高めるデザインアイデアとそのプレゼンテーションとしての展示プラン。
- 建築、プロダクト、グラフィックなど、デザインのジャンルは問いません。
- 展示プランにおいては、イメージ図、模型、試作品、映像など、プレゼンテーションの方法は自由で、その展示プランの内容も審査の対象となります。
- 開催期間を通して展示できるものであることを条件とします。
- 未発表の作品を対象とします。

デザインアイデアの実現性について

- 本公募はデザイン案の実現性によって審査するものではありません。(展示プランの実現性は評価の対象となります。)
- 優れた応募作のなかで実現性の高いアイデアについては、応募者の意向に応じ、美術館もその可能性をともに探っていきたいと考えます。

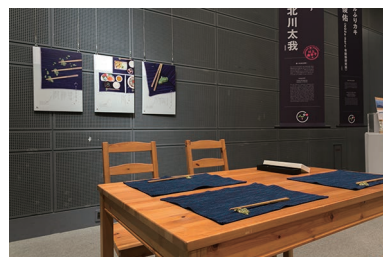
応募方法

応募用紙(特設サイトからダウンロードするか、美術館に請求(92円切手を貼った返信封筒を同封)、館内でも配布)に、必要事項を記入し、「ゲンビ『広島ブランド』デザイン公募2018」係まで郵送。または美術館受付まで持参(開館時間中)。

応募に関する注意

- 特設サイトに記載されている募集要項を必ず確認の上、応募してください。(募集要項は美術館でも配布)応募条件に満たない場合、審査の対象外とします。
- Eメール等によるデータでの応募は受け付けません。
- 展示プランのみの募集です。実際の作品は受け付けておりません。

【昨年度の入選作品(一部)】



北川 太我《架～KAKARI～》

広島伝統工芸である宮島細工の箸、宮島焼の箸置、備後紘の敷物を組み合わせた提案。箸は「瀬戸内しまなみ街道」の尾道大橋・因島大橋・生口橋をイメージし、箸置はそれぞれの橋が架かる島の形を、敷物は約140の島が点在する穏やかな瀬戸内海を表現している。



野崎 俊佑(ノザ・マル)・有建築研究所
《ポタニカルふりカキ》

広島食文化の主役でもある牡蠣。その殻から作られた植物用の肥料を携帯しやすい小さな容器にボトルリングし、一人一人の手で大地に還す。カルシウムや海のミネラルを多く含む自然の恵みであり、良質な肥料となる牡蠣殻を持ち歩くことにより、環境倫理的な行為を手軽に実践できる。

審査選考・結果発表

2019年1月11日(金) 審査結果発表!

審査および入選者の発表

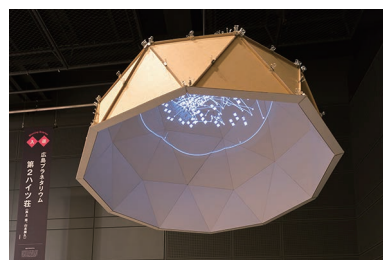
特別審査員と広島市現代美術館による審査を行い入選者(8名/組程度)及び特別審査員賞を選出します。

- 入選: 8名/組→当館より金一封(10万円)、オリエンタルホテル広島よりシングル1泊(2月15日、朝食付)を授与
- ・特別審査員賞: 3名/組
- ・観客賞: 1名/組(来場者による投票。投票期間: 2月16日～24日)

展覧会

2018年2月16日(土)～3月3日(日) 入場無料

- 会場: 広島市現代美術館地下1階ミュージアムスタジオ
- 授賞式: 2月16日(土) 14:00～(エントランスホール)



第2ハイツ荘(高上 旭/山本 展久)
《広島プラネタリウム》

広島市にある445個の地名を「星」に見立て、文字の意味や特徴を手がかりに「星座」を結んで星空を作り、プロジェクターで投影する。鑑賞者の頭に今までは異なる広島物語が浮かび上がり、広島の歴史について考えるきっかけや、未来を創造する手助けとなる。

●その他の昨年度入選作品は本プログラムの特設サイトに掲載しています。
<https://www.hiroshima-moca.jp/h-brand/>